

石けり

ふんわり

包む



▲会津木綿の良さを語る谷津さん

ストールで力になりたい

— IIE代表 谷津拓郎さん

会津坂下町の旧広瀬幼稚園で会津木綿を使ったストールを企画・販売するIIE (イー)の代表取締役である谷津拓郎さん(29)に話を聞いた。

谷津さんは、大熊町から避難してきている女性たちと一緒に活動してきた。

— この仕事を始めたきっかけは何ですか？

「震災後に、なにかやらなきゃと思ったんです。私は会津坂下町出身ですが、仕事の少ない会津に避難して来ている人たちの力になりたいと思って始めました」

— 会社名である「IIE」の由来は？

「3・11を反転させたもの

会津坂下町の「長岡家」さんに名物「小石まんじゅう」がある。小石のようなく、小さなまんじゅうという意味ではなく、「石けり」をして遊んだ子供のころのように懐かしい味わいを楽しんでもおいしいという思いが由来だという。長岡さんの故郷への思いと重ねて、新聞の題字とした。

題字の由来



▲事務所で販売しているストールの製品

— なぜ会津木綿でストールを作ろうと思いましたか？

「地元会津のものを使ったかったんです。会津木綿の良さに可能性を感じました。機械に頼らずに製品化できるものを作ろうと思いましたが、避難してきた方たちの内職のために始めた仕事なので、高度な技術を必要としない仕事の意味あるものになったと思います」

今は40分で出来ませう

— IIEで働く広嶋めぐみさん

「IIE」の事務所で働く広嶋めぐみさん(41)に話を聞いた。大熊町の自宅は原発から3・8キロのところであり、津波は自宅から200メートルまで迫ったという。

なぜこの仕事をしようと思いましたが？

「服飾に興味がありました。以前は内職でしたが、今は事務所で働いています」

— ストールを作るのにどのくらいかかりますか？

「最初は4時間かかりました。今は40分程度でできるようになりました」

— 会津若松に住むことをきめたようですが、大変なことなどはありますか？

「大雪が降ると大変です。」



▲雪は大変です、と語る広嶋さん

これからも続く支援に

谷津さんは自分が被災者じゃないのに震災後すぐに

「初めは4時間かかりました。今は40分程度でできるようになりました」

— 会津若松に住むことをきめたようですが、大変なことなどはありますか？

「大雪が降ると大変です。」

3代90年の伝統を守る

「四季菓匠 長岡家」長岡光広さん



▲「子供はもう坂下っ子です」と長岡さん

会津坂下町で90年続く「四季菓匠 長岡家」の3代目長岡光広さん(42)に話を聞いた。

長岡さんは浪江町で営業しているが、震災の影響で会津坂下町に避難してきた。浪江町から会津にきて、津波で町内を避難してきた。浪江町で菓子職人として働いたあと平成26年の年末に会津坂下町で自分のお店を再開した。

— 浪江町から会津にきて、津波で町内を避難してきた。浪江町で菓子職人として働いたあと平成26年の年末に会津坂下町で自分のお店を再開した。

「この店は祖父の代から続いていて今年で創業90年です。小学生の時祖父に可愛

「会津の水はおいしい」

— 会津地方で作ることでお店の和菓子に変化はありますか？

「会津の水がおいしいので、あんこの味がよくなりました。浪江で作るよりおいしいになったと思います」

— 和菓子職人になるきっかけは何ですか？

「この店は祖父の代から続いていて今年で創業90年です。小学生の時祖父に可愛

受け継がれる職人のプライド

長岡さんは90年続いている伝統と歴史を自分の代で終わらせなかつた。祖父からの思いを引き継ぎ、ついに避難してきた会津坂下町では店を再開した。和菓子の素材や味にこだわり製法にも決して妥協しない。若いながらも和菓子職人としてのプライドはしっかりと持っていると思つた。(二瓶)



私たちが編集しました。

二瓶(会津若松哲才中学校) 貝(会津若松夏芽鳳高校)

画竜点睛

あなたは柏もち派ですか？ちまき派ですか？▼今回長岡家さんを取材して浪江町と会津坂下町で明らか

「大変だった事と良かった事は何か？」

「浪江町と気候の変化が大変でした。特に雪には慣れませんでした。良かつた事は会津の人たちが温かく応援してくれたことです」

「会津の水はおいしい」

— 会津地方で作ることでお店の和菓子に変化はありますか？

「会津の水がおいしいので、あんこの味がよくなりました。浪江で作るよりおいしいになったと思います」

— 和菓子職人になるきっかけは何ですか？

「この店は祖父の代から続いていて今年で創業90年です。小学生の時祖父に可愛